府民の森くろんど園地探鳥会

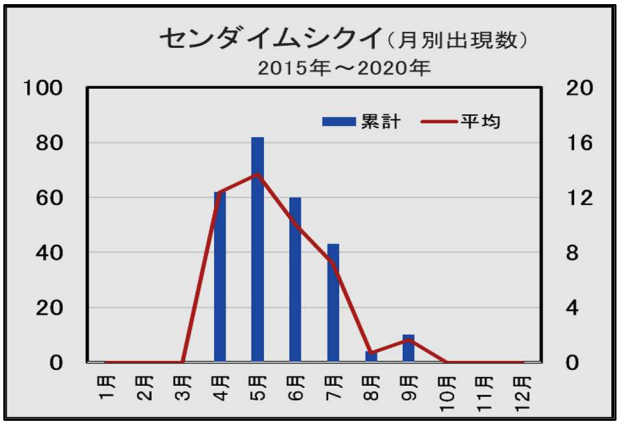
（毎月第４土曜日　両園地通算第266回）

令和5(2023)年4月22日(土)　9:30～15:00頃

日本野鳥の会大阪支部　友田武・神戸徹・近藤輝男・沖光二、平軍二(090-6901-1425)

Ⅰ　交野の鳥シリーズ(115)　センダイムシクイ

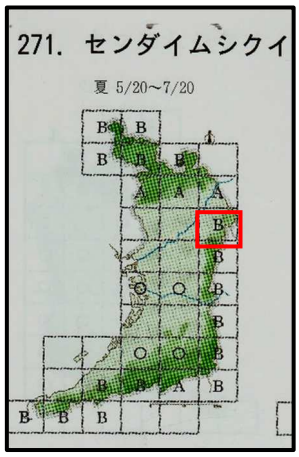
春の渡り鳥で数多く観察できるセンダイムシクイ、交野バード4/17に公開された**渡邊信義氏の「センダイムシクイ」**を紹介します。　→

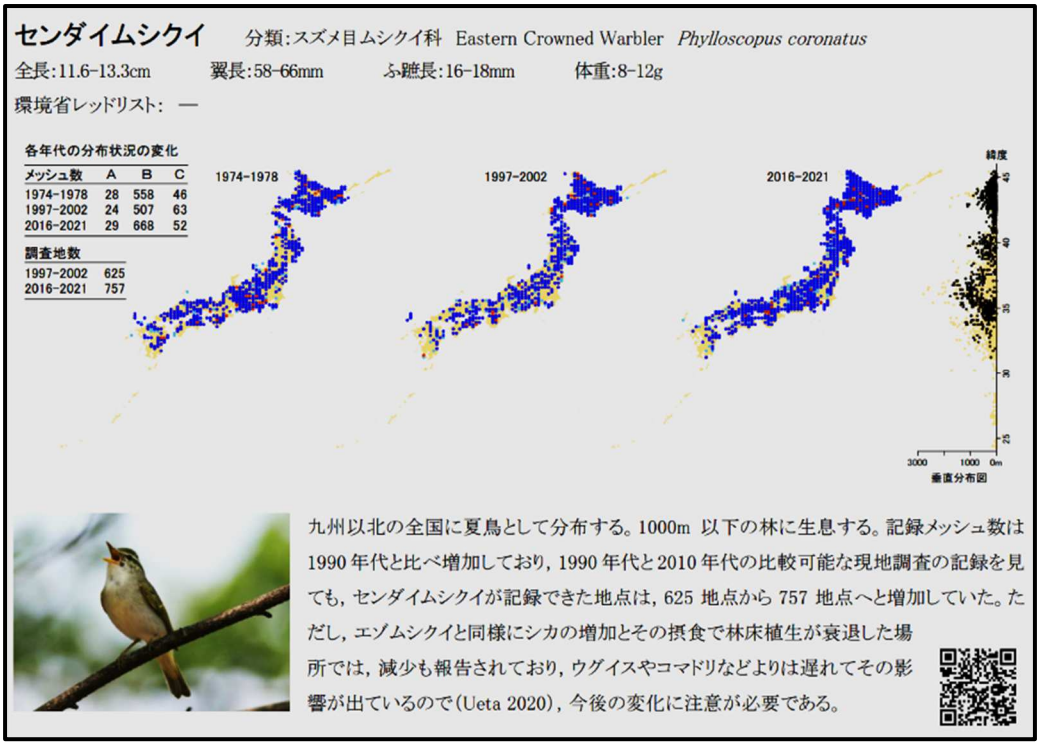


↑図①交野市の鳥情報は**友田武氏**により集約されているが、センダイムシクイは４月到着後7月まで観察されており、交野市内で繁殖していることがわかる。

図②大阪府鳥類目録2016では、大阪府の平野部をぐるりと取り巻く北摂山地、生駒・金剛山地、和泉山地で繁殖していることがわかる。　→

友田氏による交野市の観察データは、大阪府データを補完している。





←図③全国鳥類繁殖分布調査結果 2021 では、センダイムシクイが全国的に繁殖個所が増えており、特に北海道などで、メッシュが密になっていることがわかる。

ただ、シカの増加により林床植生が衰退した場所では、ウグイス・コマドリが減少しており、センダイムシクイ・エゾムシクイは遅れて影響が出つつあり、今後の変化に注意が必要とのことである。

Ⅱ　センダイムシクイの特徴について

1.「聞きなし」さえずりを人の言葉で　センダイムシクイはムシクイ科の中では最もよく見かける種。ムシクイ科の小鳥は全体がオリーブ色、その中で、センダイムシクイは頭央線の灰白色が特徴で、姿を見たときの識別ポイントになる。しかしどの種もよく似ていて識別に苦労する鳥であるが、春だけはそれぞれの種が特徴的なさえずりをするので、どの種か分かりやすい。さえずりを人の言葉で表現したとき**「聞きなし」**といわれており、**ウグイスの「法、法華経」**が良く知られている。センダイムシクイのさえずりをカタカナで書くと**「チィヨ　チィヨ　ビィー」**とされているが、その聞きなしは**「焼酎一杯ぐぃー」**とか、**「鶴千代君」**と表現されている。

2. センダイムシクイの名前の由来　センダイムシクイの和名(漢字名)が**仙台虫食**なので、宮城県仙台市に関係ありそうとわかる。そのセンダイムシクイの聞きなしに上述の「鶴千代君」があるが、伊達騒動を題材にした人形浄瑠璃や歌舞伎の**「伽藍先代萩」(めいぼくせんだいはぎ)**の**鶴千代君**にから、センダイムシクイといわれるようになったとのことである。

3. センダイムシクイはツツドリの育て親　カッコウ・ツツドリなどカッコウ科の鳥は托卵といって、他の小鳥の巣に卵を産み、その小鳥に子育てを依存しているが、ツツドリが托卵する小鳥(宿主)はセンダイムシクイである。センダイムシクイは白い無地の卵であるが、ツツドリの卵は白地に茶色の斑点があってあまり似ていない。それでもセンダイムシクイは大切にツツドリの卵を抱いて温め、孵化後は自分の子として育てている。

センダイムシクイ 220230416　**渡邊信義氏**

センダイムシクイとツツドリの大きさを比較すると、**体長約 3 倍差(10 cm対 30 cm)、体重約 10 倍差(餌条件で大きく変動する)**とのこと、センダイムシクイがツツドリを育てるために、どれほど大変な思いをしているか、苦労のほどがわかる体重差である。

交野市には繁殖期にツツドリはほとんどいないので、交野市で子育てをするセンダイムシクイは、自分の子だけを育てている筈である。

Ⅲ　先々月・先月の両園地の探鳥会結果

・**2023/2/25 くろんど園地**　歩き始めての市街地でスズメも出なかったが、月の輪滝手前の樹林でアオゲラが近くの木に止まり、鳴いてくれた。園地に入って、すいれん池では水たまりにコガモがいたが、2 か月前ミヤマホオジロ・カシラダカが出た所は空振り、貯水ダム付近でもマヒワを期待していたオオバヤシャブシにはカワラヒワのみでした。管理棟近くのアキニレにはアトリはおろかカワラヒワもいなかったが、地上の灌木(アジサイ)の間を動くジョウビタキ・アオジを確認した。午後になってカラの混群、園地出口周辺でルリビタキ雌を確認、傍示集落でメジロ、そしてタカが上空を飛んだ。平地に戻り集落に入ってイソヒヨドリ・ジョウビタキと続き、鳥合わせ場所の天見神社でアカハラ(亜種オオアカハラ)・シロハラで終了とした。終了後、天見神社でオオアカハラの出るのをまっていた方が確認されたイカルを追加したが、トータル 25 種にとどまった。また、天見神社近くの京阪河内森駅～JR 河内磐船駅周辺にはレンジャク 20 羽の群がいるとのことであったが、確認できなかった。

アオゲラ(小野款司氏)

・**2023/3/25ほしだ園地**　「ほしだ園地のハヤブサ繁殖」を見るため、開催月を偶数月→奇数つに変更したのが2019年、その後、2020年からコロナ禍で探鳥会は中止、同時にハヤブサも繁殖しなくなっていたが、今年こそは繁殖期の姿を見たいと期待していることを説明して、開始した。歩き始めてすぐジョウビタキ、イソヒヨドリのさえずり、そして私市集落から天野川沿いでツグミのなる木、上空を飛ぶツバメの群を観察した。山地に入ってからはヒヨドリ、ウグイスの声はするもの鳥は少なく、園地事務所「ピトン小屋」に着いても、期待していたハヤブサがいなかった。

0230325ハヤブサ　（渡辺信義氏）

今日のコース最高地点（標高220m）の「やまびこ広場」でオオタカ、吊り橋「星のブランコ」上からチョウゲンボウ、更にトビも飛ぶなど猛禽が出てくれた。「ピトンの小屋」へ戻って、営巣予定地の岸壁「哮が峰」の最上段枯れ木にハヤブサを確認、全員がゆっくり観察したあと、飛んで姿が見えなくなった。

昨日の暖かさからうって変わって寒い日になったが、ヤマザクラ・コバノミツバツツジなど早春の里山の花々の見ること**2**ができ、猛禽が4種(ハヤブサ・チョウゲンボウ・オオタカ・トビ)、1羽ずつの観察種が10種を超えたことから、トータル35種類となり、まずまずの気分で終えることができた。

Ⅳ－１　今日のくろんど園地探鳥会

春の渡り鳥**「オオルリ・キビタキ・センダイムシクイ」**などが、くろんど園地を通過する季節。
4月16日交野野鳥の会が開催された**「くろんど園地早朝探鳥会」**では、下記29種が観察されている。

ヤマドリ、カルガモ、キジバト、カワウ、**ツツドリ**、コゲラ、**アオゲラ**、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、**ヤブサメ**、エナガ、**センダイムシクイ**、メジロ、シロハラ、**コマドリ**、イソヒヨドリ、**キビタキ、オオルリ**、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ソウシチョウ

今日は、探鳥会のスタート時間が遅いので、
ここまではどうかわからないが、期待したい。

20230416　エナガ
（渡邊信義氏）→

Ⅳ－２　次回探鳥会　2023/5/27　ほしだ園地　9:30～15:00 頃

3月、繁殖行動が見られなかったハヤブサ、5 月はどんな姿を見せてくれるでしょうか。

4 月と同じように、大阪支部 HP・ホームズからの申し込みをお願いします。

Ⅴ　探鳥会記録（くろんど園地・ほしだ園地）

科名	種名	年月日 / 回数No	2023 1 28 ほしだ 263	2 25 くろんど 264	3 25 ほしだ 265	4 22 くろんど 266	5 27 ほしだ 267
ｷｼﾞ	ヤマドリ	4					
ｷｼﾞ	キジ	5					
ｶﾓ	ハクチョウSP	19					
ｶﾓ	オシドリ	24					
ｶﾓ	オカヨシガモ	26	2				
ｶﾓ	ヨシガモ	27					
ｶﾓ	ヒドリガモ	28					
ｶﾓ	マガモ	30	2		1		
ｶﾓ	カルガモ	32	16	2	1		
ｶﾓ	ハシビロガモ	34	2				
ｶﾓ	コガモ	38	33	4			
ｶﾓ	ホシハジロ	42					
ｶｲﾂﾌﾞﾘ	カイツブリ	62	4				
ﾊﾄ	キジバト	74	2	2	4		
ﾊﾄ	アオバト	78					
ｺｳﾉﾄﾘ	コウノトリ	119					
ｳ	カワウ	127			3		
ｻｷﾞ	ゴイサギ	139					
ｻｷﾞ	ササゴイ	141					
ｻｷﾞ	アオサギ	144	2		2		
ｻｷﾞ	ダイサギ	146					
ｻｷﾞ	コサギ	148	5		1		
ｸｲﾅ	バン	174	2				
ｸｲﾅ	オオバン	175	1				
ｶｯｺｳ	ホトトギス	185					
ｶｯｺｳ	ツツドリ	187					
ｱﾏﾂﾊﾞﾒ	アマツバメ	192					
ｱﾏﾂﾊﾞﾒ	ヒメアマツバメ	193					
ﾁﾄﾞﾘ	ケリ	195					
ﾁﾄﾞﾘ	コチドリ	203					
ｼｷﾞ	タシギ	219	1				
ｼｷﾞ	イソシギ	244					
ｼｷﾞ	タマシギ	271	1				
ﾐｻｺﾞ	ミサゴ	339					
ﾀｶ	ハチクマ	340					
ﾀｶ	トビ	342		3	3		
ﾀｶ	ツミ	354					
ﾀｶ	ハイタカ	355					
ﾀｶ	オオタカ	356			1		
ﾀｶ	サシバ	357					
ﾀｶ	ノスリ	358					
ｶﾜｾﾐ	カワセミ	383	3				
ｷﾂﾂｷ	コゲラ	390	1	4	4		
ｷﾂﾂｷ	アカゲラ	393					
ｷﾂﾂｷ	アオゲラ	397		1			
ﾊﾔﾌﾞｻ	チョウゲンボウ	401			1		
ﾊﾔﾌﾞｻ	ハヤブサ	407			1		
ｻﾝｼｮｳｸｲ	サンショウクイ	412					
ｶｻｻｷﾞﾋﾀｷ	サンコウチョウ	418					
ﾓｽﾞ	モズ	420	3		1		
ｶﾗｽ	カケス	427					
ｶﾗｽ	ハシボソガラス	435	3	1	3		
ｶﾗｽ	ハシブトガラス	436	16	3	14		
ｶﾗｽ	キクイタダキ	438					
ｼｼﾞｭｳｶﾗ	コガラ	441					
ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ヤマガラ	442	1	2	2		
ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ヒガラ	443					
ｼｼﾞｭｳｶﾗ	シジュウカラ	445	5	3	3		
ﾂﾊﾞﾒ	ツバメ	457			8		
ﾂﾊﾞﾒ	コシアカツバメ	459					
ﾂﾊﾞﾒ	イワツバメ	461			1		
ﾋﾖﾄﾞﾘ	ヒヨドリ	463	72	16	15		

科名	種名	年月日 / 回数No	2023 1 28 ほしだ 263	2 25 くろんど 264	3 25 ほしだ 265	4 22 くろんど 266	5 27 ほしだ 267
ｳｸﾞｲｽ	ウグイス	464	2	1	20		
ｳｸﾞｲｽ	ヤブサメ	465					
ｴﾅｶﾞ	エナガ	466	10	10	1		
ﾑｼｸｲ	オオムシクイ	476					
ﾑｼｸｲ	メボソムシクイ	477					
ﾑｼｸｲ	エゾムシクイ	479					
ﾑｼｸｲ	センダイムシクイ	480					
ﾒｼﾞﾛ	メジロ	485	21	7	5		
ﾖｼｷﾘ	オオヨシキリ	492					
ﾚﾝｼﾞｬｸ	キレンジャク	500					
ﾚﾝｼﾞｬｸ	ヒレンジャク	501					
ﾐｿｻｻﾞｲ	ミソサザイ	504					
ﾑｸﾄﾞﾘ	ムクドリ	506	9		5		
ﾑｸﾄﾞﾘ	コムクドリ	508					
ｶﾜｶﾞﾗｽ	カワガラス	512					
ﾋﾀｷ	トラツグミ	514					
ﾋﾀｷ	マミチャジナイ	520					
ﾋﾀｷ	シロハラ	521	6	1	2		
ﾋﾀｷ	アカハラ	522		1			
ﾋﾀｷ	ツグミ	525	13		10		
ﾋﾀｷ	コマドリ	530					
ﾋﾀｷ	ルリビタキ	536		2	1		
ﾋﾀｷ	ジョウビタキ	540	4	2	4		
ﾋﾀｷ	ノビタキ	542					
ﾋﾀｷ	イソヒヨドリ	549	2	1	1		
ﾋﾀｷ	エゾビタキ	552					
ﾋﾀｷ	サメビタキ	553					
ﾋﾀｷ	コサメビタキ	554					
ﾋﾀｷ	キビタキ	558					
ﾋﾀｷ	ムギマキ	559					
ﾋﾀｷ	オオルリ	561					
イワヒバリ	カヤクグリ	566					
ｽｽﾞﾒ	ニュウナイスズメ	568					
ｽｽﾞﾒ	スズメ	569	45		10		
ｾｷﾚｲ	キセキレイ	573	2		3		
ｾｷﾚｲ	ハクセキレイ	574	10	1	1		
ｾｷﾚｲ	セグロセキレイ	575	9		3		
ｾｷﾚｲ	ビンズイ	580	5				
ｱﾄﾘ	アトリ	586					
ｱﾄﾘ	カワラヒワ	587	17	6	7		
ｱﾄﾘ	マヒワ	588					
ｱﾄﾘ	ベニマシコ	592					
ｱﾄﾘ	ウソ	599					
ｱﾄﾘ	シメ	600					
ｱﾄﾘ	イカル	602	10	1			
ﾎｵｼﾞﾛ	ホオジロ	610					
ﾎｵｼﾞﾛ	カシラダカ	617					
ﾎｵｼﾞﾛ	ミヤマホオジロ	618					
ﾎｵｼﾞﾛ	アオジ	624	6	6	4		
ﾎｵｼﾞﾛ	クロジ	625					
ｷｼﾞ	コジュケイ						
ﾊﾄ	カワラﾊﾞﾄ(ﾄﾞﾊﾞﾄ)		35	2	2		
ﾁﾒﾄﾞﾘ	ソウシチョウ						
	ムシクイSP						
	タカSP			1			
	マルガモ		1				
観察種数合計			39	25	35		
	個体数		384	83	148		
	天候		晴	晴	曇		
	参加者		7	16	16		